

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和4年4月20日

提出区分	実績	整理番号	17	課題区分	C		
横断的な課題	農商工親連携した果物を軸とする地域活性化「ながの果物語り」の推進						
地域重点政策	・地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり ・「人が集い、文化薫る」魅力ある長野地域づくり					長野地域振興局	
実施機関	長野保健福祉事務所			担当課	所属	健康づくり支援課	
事業名	ながの果物語り「EAT健康に食べる」推進事業			電話	026-225-9045		
				E-mail	nagaho-kenko@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要	目的 (目指す姿)	全世代の健康づくりと果物の適量摂取を推進する。					
	現状と課題	<p>「令和元年度県民健康・栄養調査」によると、野菜摂取量目標量1日350gのところの平均値は、男性300g、女性293gであり約7割の人が目標量未満である。また、果物の摂取目安量1日200gのところ、習慣的摂取量は男性87g、女性110gと少ない。特に若い世代では、野菜摂取量は約250g、果物は約45gとさらに少ない状況である。</p> <p>また、令和2年度に行った「果物等の摂取に関する健康意識調査」によると、日常的に果物を摂取しない層についての若年層へのインタビュー調査の中で、「大学進学を機に長野地域に住んでいる人などの単身世帯では果物をあまり摂取しておらず、果物に関する知識が乏しい様子である」との考察がなされている。</p> <p>世代ごとに課題が違うなかで、主食・主菜・副菜を揃えたバランスのよい食事に加え、果物の適量摂取に向けた取組が必要である。</p>					
内容 (変更後の内容)	概要	<p>1 健康づくりリーフレットの作成 果物と野菜の適量摂取を促進するリーフレットを作成する。</p> <p>2 若者向け情報発信 Instagramの利用やyoutubeへの動画投稿等を通じて、学生や社会人等に向けて果物の良さや美味しさ、健康情報を発信する。 ※Instagram「tabetellnagano【タベテルナガノ】」: @tabetell_nagano</p> <p>3 健康づくりフォーラムの開催 果物と野菜の適量摂取推進のための健康づくりフォーラムを開催する。 日時: 令和4年3月3日(木) 方法: オンライン開催(WebExシステム) 実施内容 ○講演 「食&健康情報の「伝え方」と「受けとり方」～雑誌『栄養と料理』編集の現場から～」 講師 女子栄養大学出版部 浜岡さゆり先生 ○事例発表 「信州の食でつながる 人づくり・地域づくり」 長野県立大学 健康発達学部食健康学科 笠原 賀子教授(座長兼発表等) ・事例発表3題: 長野県立大学学生、小川村食生活改善推進協議会、千曲市第1学校給食センター</p>					
		事業期間	R3.4.1		～	R4.3.31	
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	健康づくりリーフレットの作成	果物と野菜の適量摂取を促進するリーフレットを作成する。	55,000	・果物野菜パンフレット40,000円(@8×5000部)・郵送代15,000円			
	若者向け情報発信	SNSを利用し、若者に向けて果物の良さや美味しさ、健康情報を発信する。	36,871	・撮影用機材等16,871円・郵送代10,000円・カラーコピー10,000円			
	健康づくりフォーラムの開催	健康づくりフォーラムの開催	152,425	・講師・発表者謝金76,300円(7名)・オンライン用機材、感染症対策用品31,125円・郵送代15,000円・カラーコピー30,000円			
合計			244,296				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	リーフレットの配布		1000部	3700部	● 達成		
	SNSを活用した情報発信		月1回以上	計28回	○ 一部達成		
	健康づくりフォーラムの開催		参加者50人以上	51名	○ 未達成		
事業実績・成果	<p>1 参加型リーフレットづくり ・昨年度に続き、長野県立大学健康発達学部職健康学科の学生と連携し、若者の視点を取り入れたVer2.としてリーフレットが作成できた。昨年度からの問合せが10件1800部要望があり、反響を得ることができた。</p> <p>2 SNSを活用した情報発信 ・長野地域公式Instagram「tabetell nagano【タベテルナガノ】」を開設、更新を月1回以上の計28回を投稿した。果物や野菜を使ったおすすめレシピ等を発信しフォロワーを増やすことが出来た。</p> <p>3 健康づくりフォーラムの開催 ・令和4年3月3日、健康づくり・食育フォーラムをオンラインで開催し、果物の適正摂取・健康づくり実践活動の普及啓発を図ることができた。</p>						
今後の方向性	今までの取組み・ノウハウを活かして、働き盛り世代へ果物の適量摂取を通じた健康づくりを働きかける。働き盛り世代は年代が広いので、若い世代の発想と今どき感覚と青年世代の知識を生かした事業を展開する。						